

歯周病と糖尿病との危険な関係

— 歯周病と全身疾患との関わり。全身の健康は口の中から —

講演要旨



日本歯科大学生命歯学部 歯周病学講座 教授 **沼部 幸博**

糖尿病は生活習慣病の代表格です。本邦では境界型糖尿病（糖尿病予備軍）の方が1,320万人、糖尿病と強く疑われる方が890万人、合わせて2,210万人の患者さんがいるとされています。

一方、私たちが大切な歯を失う原因のほとんどは歯周病によるもので、現在の日本では、成人の約7割が歯周病に罹患していることがわかっています。

この2つの病気はともに生活習慣病として知られていますが、糖尿病の患者さんでは歯周病の罹患率が健康な方よりも高いことから、歯周病は糖尿病の6番目の合併症となっています。

反対に糖尿病の患者さんが、お口の中の歯周病を放置したままですと、インスリ

ン抵抗性が高まり血糖値のコントロールが困難になり糖尿病が悪化すること、しかし歯周病の治療をしっかりと行うと血糖値が改善することから、この2つの病気には双方向の関係があることが確認されています。

これらのことから、現在では糖尿病の患者さんに対する「歯周病予防」と「歯周病治療」の重要性が強調されるようになり、それらが健康寿命延伸に深く関係する重要なキーワードなのです。

本講演では、歯周病の病気の正体と歯周病が関係する全身の病気の数々を紹介し、その中でも糖尿病と歯周病との危険な関係に焦点を当てて、その関係を上手に断ち切る方法について、ご一緒に考えていきたいと思ひます。

略歴

- 1983年3月 日本歯科大学歯学部卒業（72回）
- 1987年3月 日本歯科大学大学院修了（歯学博士）
- 1987年4月 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助手
- 1989年4月 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 講師
- 1989年9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）歯学部 客員講師（～1991年）
- 1993年4月 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助教授
- 2005年6月～現在 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 教授
- 2018年4月～現在 日本歯科大学生命歯学部 生命歯学部長

専門医・指導医・学会活動

- 日本歯周病学会 常任理事、専門医（指導医）
- 日本歯科保存学会 理事、専門医（指導医）
- 日本レーザー歯学会 専務理事、専門医（指導医）
- 日本歯科医学教育学会 常務理事
- 日本歯科薬物療法学会 理事
- 日本歯科大学歯学会 評議員
- 日本歯科医学会 評議員
- 国際歯科研究学会日本部会（JADR）評議員
- 国際歯科研究学会（IADR）
- 日本臨床歯周病学会
- 日本老年歯科医学会
- 東京都歯科医師会
- 日本歯科医師会